

『多摩バーチャル・デポジット・ライブラリー』

利用のための資料保存をめざすNPO法人共同保存図書館・多摩

—ここまで進んだバーチャル共同保存図書館—

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

齊藤 誠一

1 多摩地域の図書館では・・・

- (1) 閉架（保存）書庫資料の利用拡大
OPAC 普及によるアクセスの容易さ、開館 40 年以上＝蔵書の充実
- (2) 相互貸借による資料活用の拡大
横断検索システムの普及
- (3) 保存スペースの不足
多摩地域全体の収蔵率=115%以上
- (4) 除籍資料の増加
多摩地域全体で約50～60万冊／年
- (5) 資料保存の広域的なセーフティネットの仕組みがない
⇒多摩地域で最後の一冊をチェックする機能もない

2 多摩地域の共同保存図書館への動き

- (1) 東京都市町村立図書館長協議会の動き
 - ・『東京都市町村立図書館の除籍に関する調査報告書』（2002）
 - ・『都・市町村立図書館の除籍資料をどう再活用するか』（2003）
 - ・『多摩地域「共同利用図書館」の設置に向けて—NPOによる共同出資事業化の提案』（2006）
 - ・『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』（2008）
 - ・『多摩地域における共同利用図書館検討プロジェクトチーム報告書』（2015）
- (2) 東京都市長会の動き
 - ・『広域連携の勧め』（2006）
- (3) NPO法人共同保存図書館・多摩の発足（2008年4月）
多摩地域の公共図書館が共同で資料を保存する施設（デポジット・ライブラリー）をつくり、資料保存と資料提供を保障することをめざしている。

3 多摩地域の共同保存図書館構想（多摩デポの構想）の内容

- (1) 各自治体図書館単位での「最後の一冊本」の保存・維持の努力
- (2) 多摩地域全体において
「最後の二冊以下本」の保存の保障
- (3) 地域内での物流体制の確保
迅速な資料提供の保障
- (4) データ管理の検討
⇒カーリルとの共同研究
ただし、具体的な共同保存図書館が実現していない

4 特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩の活動

- (1) 共同保存図書館の設置への啓発活動
⇒多摩デポ講座の開催
⇒多摩デポ通信の発行
⇒多摩デポブックレットの発行
- (2) 共同保存図書館設置に向けた研究活動
バーチャル・デポジット・ライブラリー構想の研究と実現
リアル・デポジット・ライブラリーの模索

5 まとめ

- (1) どこの都道府県でも同じ課題を抱えている。
⇒オープンデータの活用によって、図書館の広域行政のモデルプランを提起したい。
- (2) 電子書籍の前に、現にある印刷資料の保存と活用を考えたい。
⇒今だから、あえて印刷資料の保存と活用を考えたい。
- (3) リアルデポの実現
- (4) バーチャルデポの実現と課題
⇒分担保存の仕組み作りから共同保存へ＝新システムの構築
⇒除籍資料を大量に処理する場合の仕組み＝オフラインでデータをアップロードして行う。そのためのマニュアルの作成が必要。
⇒ISBN が付与されていない資料への対応
⇒システムの進化と各図書館のデータの整備
⇒新システムの多摩デポ HP 上での公開⇒システムの検証と運用の検討